

Fujiheavy's **Robin Engine**



# ロビンエンジン

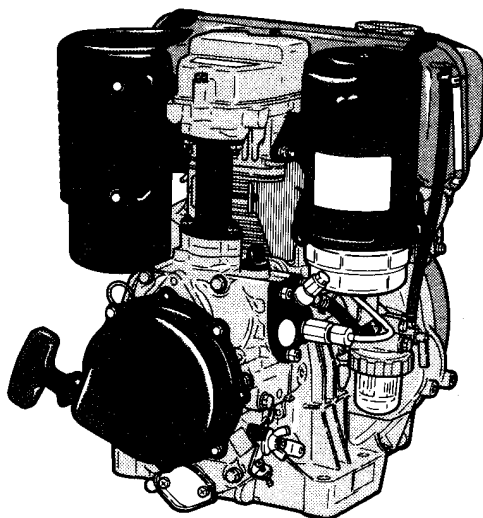
取扱説明書

**DY30**<sup>D,DS</sup><sub>B,BS</sub>形 299cc

**DY35**<sup>D,DS</sup><sub>B,BS</sub>形 348cc

**DY41**<sup>D,DS</sup><sub>B,BS</sub>形 412cc

**DY42**<sup>D,DS</sup><sub>B,BS</sub>形 412cc



 **富士重工業株式会社**

2ZZ9010053

# まえがき

このたびは当社製品をお買い上げいただきましてありがとうございます。

この取扱説明書には、正しく安全にご使用いただくための注意事項が記載されています。

ご使用になる前に必ず本書をお読みになり使用方法を理解してください。(誤った使用法は、事故・怪我の原因となります)

作業機の取扱説明書も必ず読んで理解の上使用してください。

取扱説明書は、大切に保管し、何時でも見られるようにしておいてください。

末永く皆様のお役に立ち、ご愛用くださるようお願い申し上げます。

※エンジンの改良等により、本書の内容が異なる場合がありますのでご了承ください。

## 目次

1. 安全にご使用いただくために	1 頁
2. 各部の名称	3 頁
3. 運転を始める前に	5 頁
4. セルモータ付エンジンをお持ちの方へ	7 頁
5. 運転のコツと停止のしかた	9 頁
6. 点検について	13 頁
7. 長期保存のしかた	18 頁
8. 仕様	19 頁
9. ベルト駆動について	23 頁
10. 大型オイルパンについて	24 頁

**識別番号を記録しておいてください。**

お手持ちのエンジンの識別番号を下記の空欄に記入しておきましょう。補用部品をご注文される場合に便利です。

PROD NO.									

SER NO.				

# 1. 安全にご使用いただくために

---

安全にご使用いただくために、シンボルマークや標語を次のような内容で使いわけてあります。

**！危険**：この表示はその警告に従わなかった場合、死亡又は重傷を負う可能性が高いと考えられる項目に使用します。

**！警告**：この表示はその警告に従わなかった場合、死亡又は重傷を負う可能性が考えられる項目に使用します。

**！注意**：この表示はその警告に従わなかった場合、けがや火傷を負う可能性が考えられる項目に使用します。

またそれぞれの項目に危険を回避するための予防措置を記載していますので必ず守ってください。

**！危険**：燃料はエンジンを止めてから補給すること。

- ・エンジンを運転したまま燃料を補給すると、燃料がこぼれて、エンジンスパークやマフラなどから引火することがあります。
- ・燃料の補給は、運転停止後2分間以上冷却した後行ってください。
- ・燃料がこぼれたら、きれいにふき取ってから始動してください。
- ・燃料補給時のくわえタバコなど、火気厳禁。

**！危険**：排気ガス出口付近には、燃えやすいものは近づけないこと。

マフラの排気口付近は高温になります。火災の原因になりますのでガソリン、マッチ、紙、わらくず等、燃えやすいものを近づけないでください。

**！危険**：エンジンのまわりは火気厳禁、燃料に引火、火災の危険があります。

建物およびその他の設備から1m以上離して設置して下さい。

**！危険**：平坦な安定した場所に設置すること。

傾斜地では燃料タンクキャップや気化器から燃料がこぼれ、火災の原因になります。

**！危険**：エンジンの運搬時は燃料を抜くこと。

燃料がタンクに残っていると燃料が漏れ、火災の原因になります。

**！警告**：室内、トンネル内など換気の悪い所では使用しないこと。

エンジンの排気ガス中には一酸化炭素などの有害な成分が含まれており、ガス中毒を起こす危険があります。やむをえない場合は、排気ガスの室外放出等、十分換気をしてください。

**！注意**：出力軸、プーリー、ベルト等の回転部が露出していないこと。

十分な防護（カバー）をして回転部への接触を防止する処置を取ってください。負傷事故の原因になります。

**！注意**：熱くなっているマフラーやエンジン各部を触らないこと。

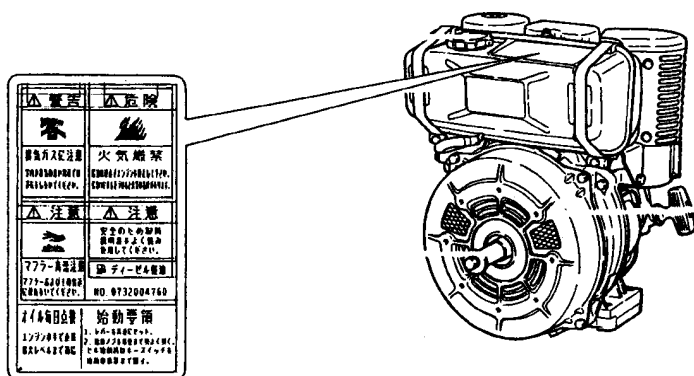
火傷の恐れがありますので、これ等の箇所には十分な熱害防護策をしてください。幼児が触れないよう隔離措置をして、安全な場所で運転してください。

**！注意**：作業前の点検を行いましょう。（くわしくは4頁以降を、お読みください）

- ・燃料パイプ等の取付部がゆるんでいないか、又損傷していないか十分確かめて、必要があれば締め付けや交換をしてください。燃料漏れは引火する危険があります。
- ・各部のボルト、ナットのゆるみはないか確かめてください。各部の機能に異常が生じ危険です。
- ・冷却ファンやリコイルスタータの周囲から、ゴミ、草及びその他のくず等は、取り除いてください。
- ・オイルは適量に入っているか確かめてください。オイル不足は機能に異常が生じ危険です。
- ・運転する時の服装にご注意ください。前掛け、腰タオル等特に長い紐類は巻込まれたり、引掛かる危険があります。

**！警告表示**

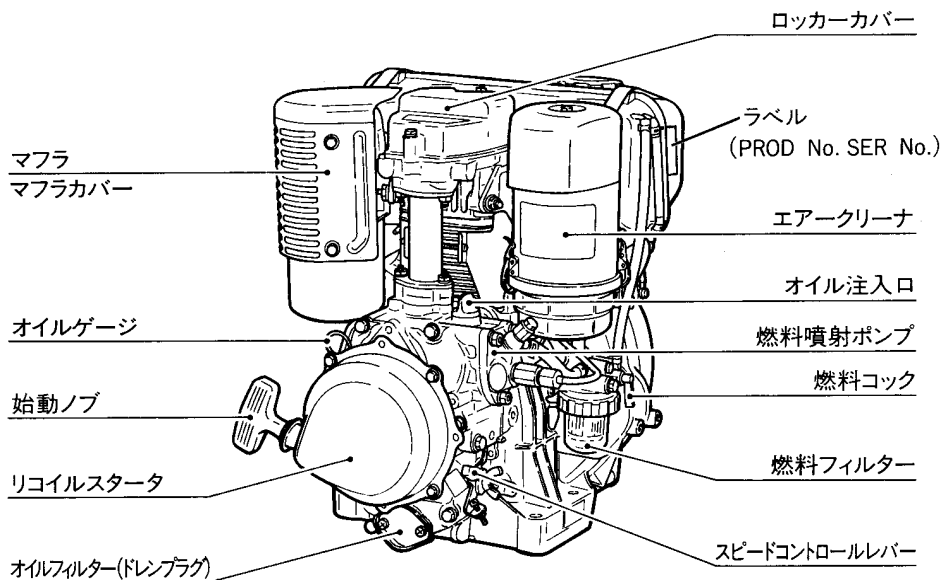
- ・当社エンジンには下記に示す場所に、特に重要な危険事項に対し注意ラベルが貼付されています。使用に際しては、十分に理解の上守ってください。
- ・注意ラベルが見えにくくなった場合や、はがれた場合には貼りかえてください。



部品番号 0732004760

## 2. 各部の名称

D形・B形

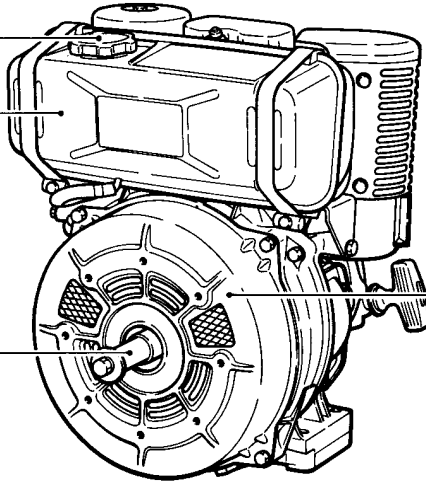


D形

燃料タンクキャップ  
(燃料給油口)

燃料タンク

出力軸



フライホイールカバー

B形

燃料タンクキャップ

燃料タンク

オイル注入口

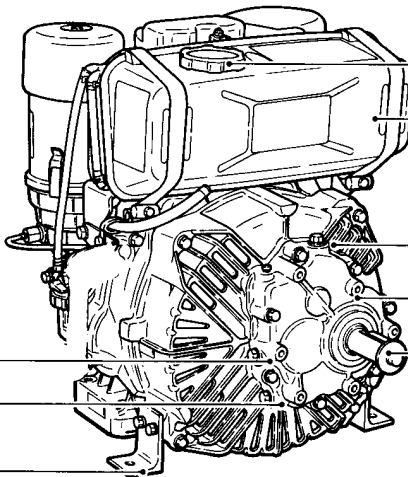
減速機

出力軸

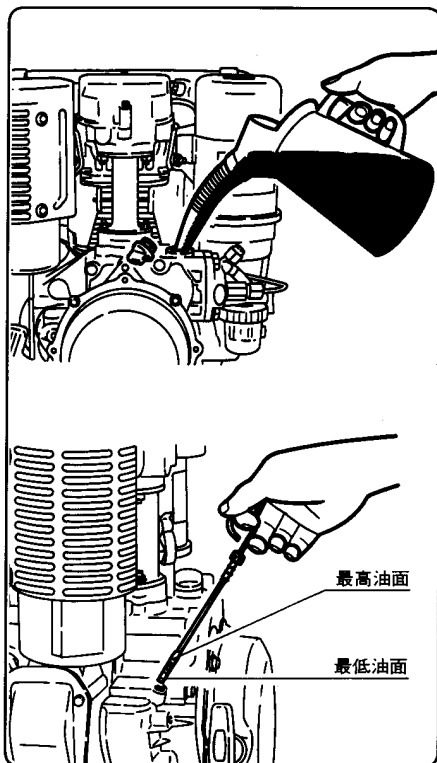
検油栓(検油穴)

ドレンプラグ

エンジンサポート



### 3. 運転を始める前に



#### エンジンオイルを入れる。

オイルはエンジンを水平に置き、オイルゲージを口元まで差し込んで、上のきざみ線まで入れてください。約1ℓ入ります。

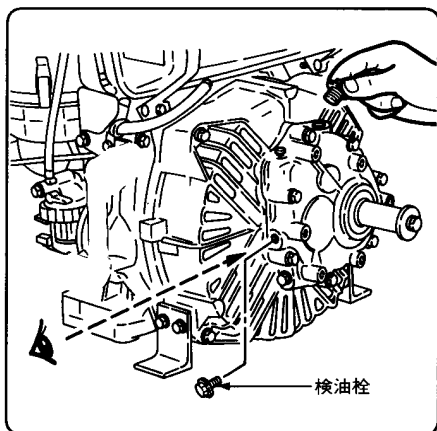
※大型オイルパン仕様は約1.5ℓです。

- オイルは次の粘度のロビン純正オイル又はディーゼルエンジンオイルを使用してください。

SAE #30(10°~40℃)

SAE 10W-30(-15°~20℃)

- エンジンオイルの質および量の低下は焼付トラブルをまねきます。オイルの品質はCC級又はCD級のものをご使用ください。



#### 減速機オイルを確認する。

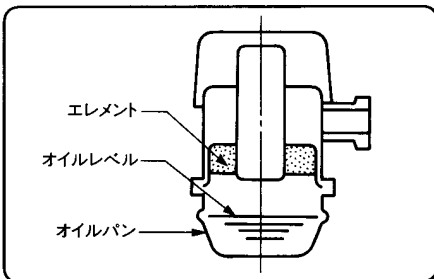
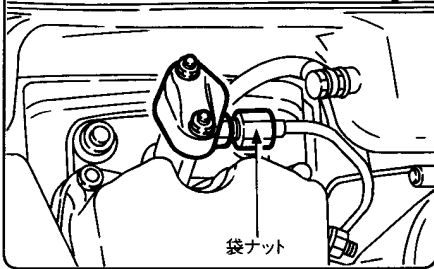
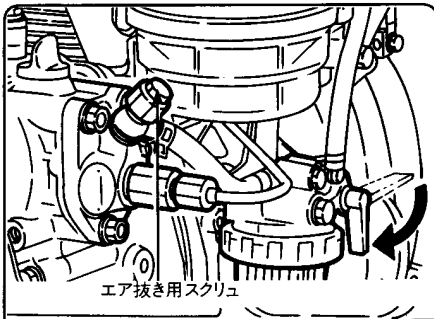
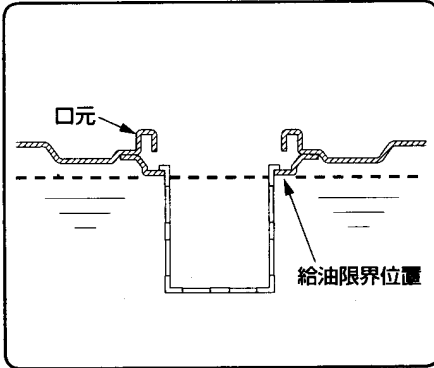
(B形のみ)

オイルはエンジンを水平に置き、検油栓をはずし、検油穴よりあふれるまで入っていれば規定量です。約220cc入ります。

- オイルの入れすぎはブリーザーよりオイルの吹出しの原因となります。
- 使用オイルは上記エンジンオイルと同じものを使用してください。

## 燃料タンクに燃料を入れ、 燃料系統のエアを抜きます。

### ！危険：火気厳禁



- 燃料はきれいな自動車用軽油(JIS 2号)を使用してください。
  - 燃料は給油口の口元まで入れず、所定の給油限界位置以内で補給して下さい。入れすぎると燃料が燃料タンクキャップからにじみ出ることがあり危険です。
  - 燃料給油時には、給油口に装着してある燃料コシ網を必ず使用してください。
  - ドラム缶の底には水、異物が多く蓄積し、知らずに入ると噴射ポンプ、ノズルを焼付かす場合があります。
  - タンク容量は約4.5ℓです。
- 燃料がこぼれたら、きれいにふき取ってから、次の要領でエア抜きを行なってください。

1. 燃料フィルターのコックを開にします。
2. 噴射ポンプのエア抜き用スクリューをゆるめ、気泡が出なくなるまで燃料をあふれ出させます。
3. あふれた燃料はきれいにふきとってください。
4. 上記の操作が終わったらもう一度締め付け部分を確認してください。

※ 高圧管を分解した場合は、スピードコントロールレバーを高速にセットし、ノズル側高圧管の袋ナットをゆるめ、燃料が十分出るまでエンジンを空転させてください。あふれた燃料はきれいにふきとってください。

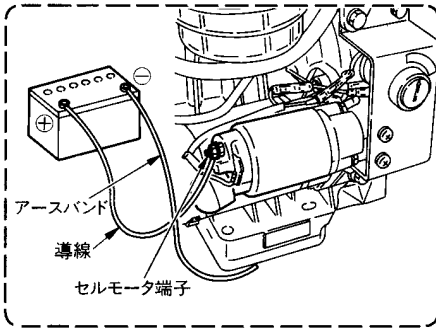
- 燃料補給はエンジンを停止してから行なってください。
- 燃料は空になる前に補給するとエア抜きの必要はありません。

## エアークリーナにオイルを入れる。 (オイルバスエアークリーナのみ)

オイルパンにオイルレベルまでエンジンオイルを入れてください。







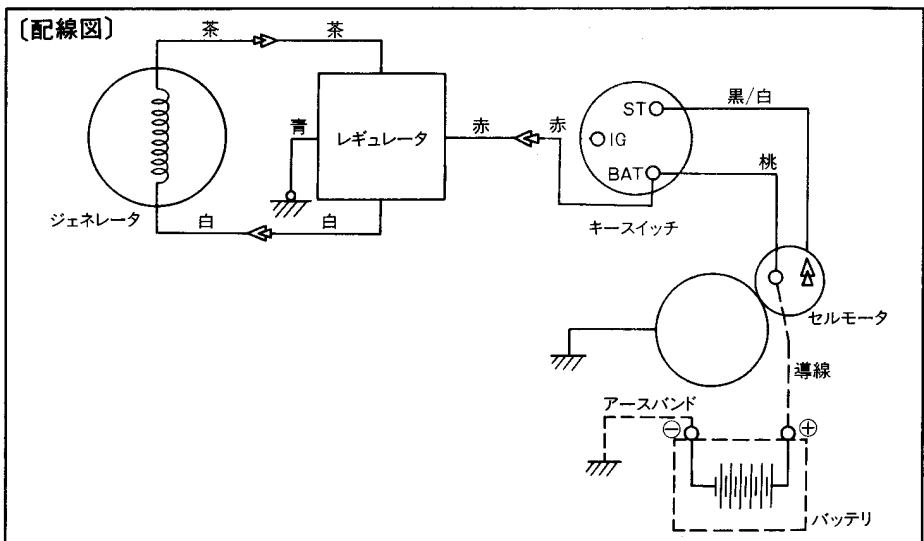
## 配線について

1. バッテリーの⊕端子とセルモータ端子を導線で接続します。

注意：バッテリーの⊖端子とは絶対に接続しないでください。逆接続はレギュレータを瞬時に破損してしまいます。

2. バッテリーの⊖端子はアースバンドでエンジンの取付ボルト又はセット機本体に締めつけアースをとります。
3. キースイッチを移動装着する場合は、スイッチの水抜き穴が下向になるよう装着してください。

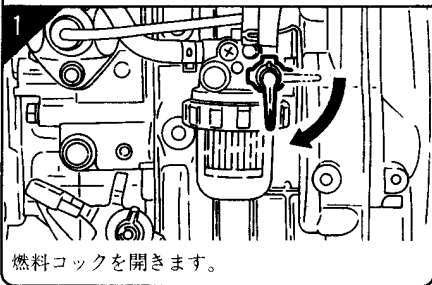
各端子のネジは振動でゆるまないよう確実に締めつけてください。



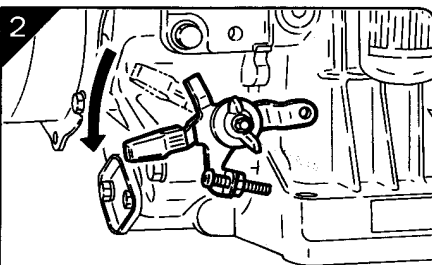
-----部はエンジンに装着してありません。

## 5. 運転のコツと停止のしかた

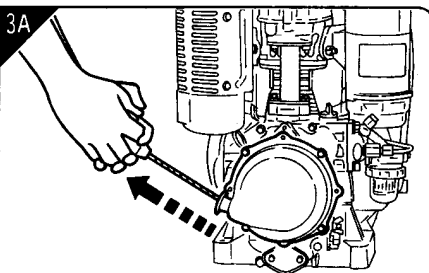
### 始 動



燃料コックを開きます。



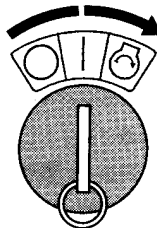
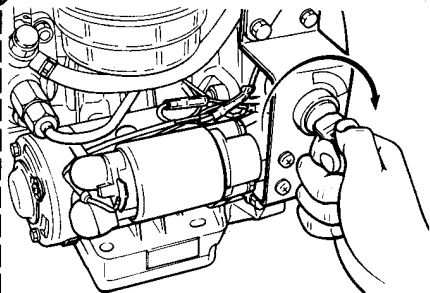
スピードコントロールレバーを始動位置に合わせます。



- ・始動ノブをゆっくり引いてゆくと重くなる所(圧縮点)があります。更に少し引くと一度軽くなる所があり、そこから始動ノブを一旦元に戻し、勢いよく長めに引張ります。
- ・ロープは一杯に引きすぎらないでください。引いた始動ノブは、エンジンが始動したらその位置から手離さずにしずかに元に戻してください。

3B

セルモータ付エンジンの場合

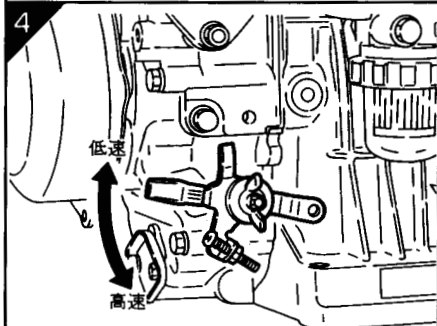


- ：停止
- |：運転
- ⊗：始動

キーをキースイッチに差し込み運転の位置にします。更に右へ廻す(始動位置)とエンジンが始動します。

- ・始動しない場合、5秒以上連続してセルモータを廻さないでください。キーを運転位置に戻し、10秒位休んでから再始動するようにします。
- ・エンジン運転中は、キースイッチを始動位置に絶対に廻さないでください。
- ・セルモータが故障またはバッテリーがあがって始動しない場合にはリコイルスタータで始動させてください。キースイッチを運転の位置にしてリコイルの始動ノブを引張ってください。

## 運 転

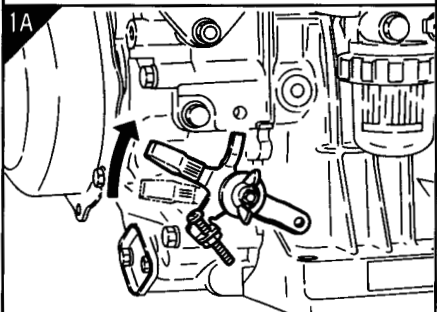


エンジン始動後、負荷をかけずに約5分位低速で運転（暖機）します。

スピードコントロールレバーを徐々に高速側に操作し、所要回転数にセットします。

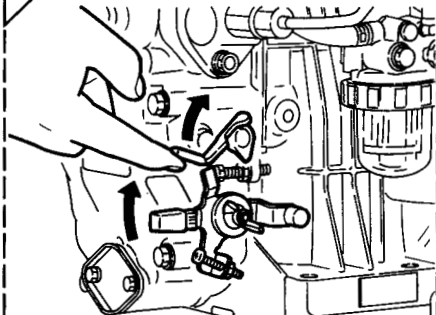
- 作業を中断する時はその都度スピードコントロールレバーを低速側に戻してください。燃料の節約のみならず、エンジンの寿命にも好影響を与えます。

## 停 止



エンジン回転数を低速にし2～3分運転します。スピードコントロールレバーを停止まで戻してください。エンジンは停止します。

## 1B ストップレバー付の場合



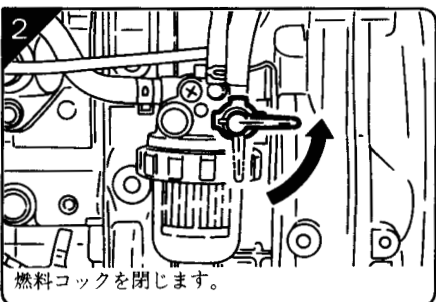
エンジン回転を低速にし、エンジンが停止するまでストップレバーを上げてください。

## 1C セルモータ付エンジンの場合



- ：停止
- |：運転
- ：始動

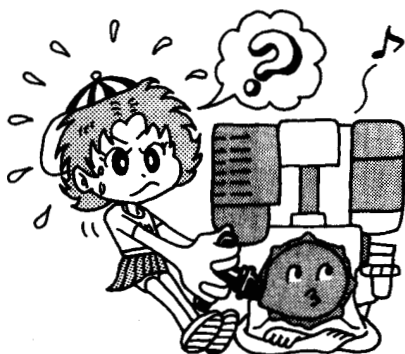
エンジン停止後、キーを停止の位置にします。



燃料コックを閉じます。

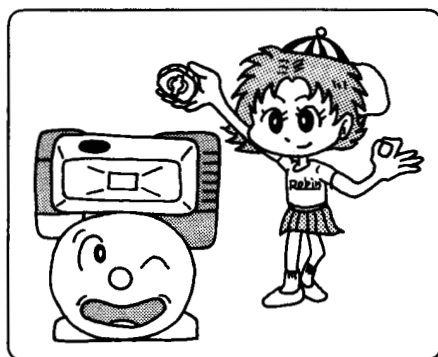
- 運転中、キーを停止位置または抜いた場合は充電しません。十分注意してください。

## エンジンがかからないとき



修理を依頼される前に、まずご自身で次の点検を行なってください。

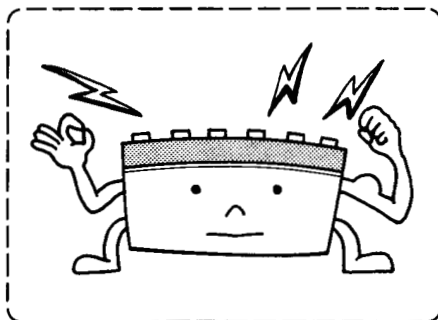
点検された上でなお異常のある場合は、お買い求めの販売店または最寄りの指定整備工場へお申しつけください。



## 燃料に異物が混ざっていませんか？

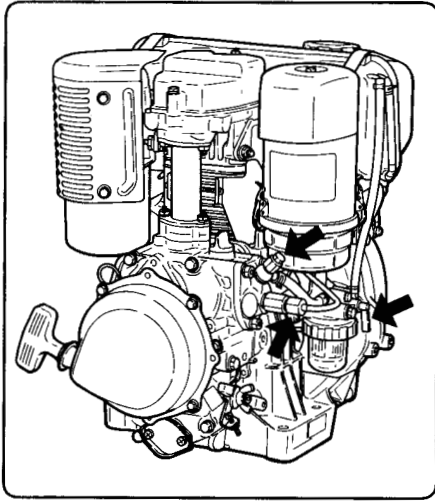
### ！危険 ：火気厳禁

1. 燃料タンクの燃料を全部抜き、異物又は水が混っていないか確認してください。
2. 燃料フィルターを洗浄してください。



## バッテリーは充電されて いますか？

1. セルモータ付エンジンは、バッテリーが過放電状態になると始動不能になります。販売店又は指定整備工場にご相談ください。
2. 配線、接続部に異常がないか確認してください。



## 燃料は噴射されていますか？

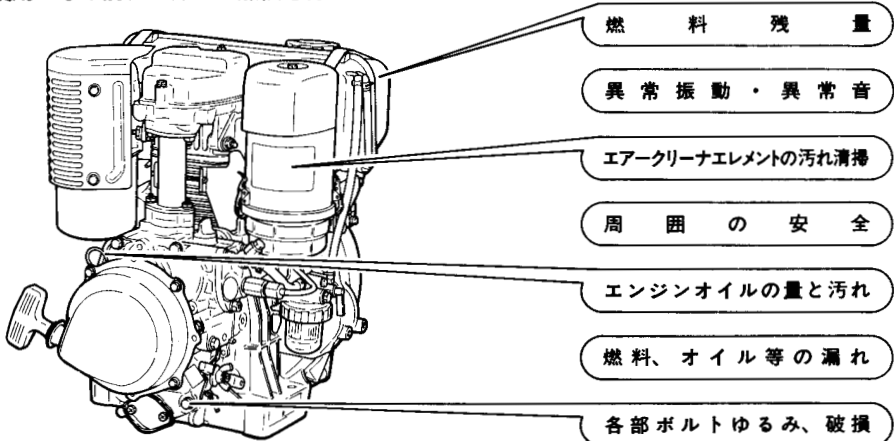
### ！危険：火気厳禁

1. 燃料フィルターのコックが開いているか確認してください。
2. 噴射ポンプのエア抜きスクリュをゆるめ、エア抜きをしてみてください。
3. 噴射ポンプ側の高圧管を外し、スピードコントロールレバーを高速にセットし、エンジンを空転させ燃料が噴射されているか確認してください。燃料が出ない場合は、販売店又は指定整備工場にお申しつけください。

# 6. 点検について

## 日常点検

ご使用になる前、是非次の点検を行ってください。

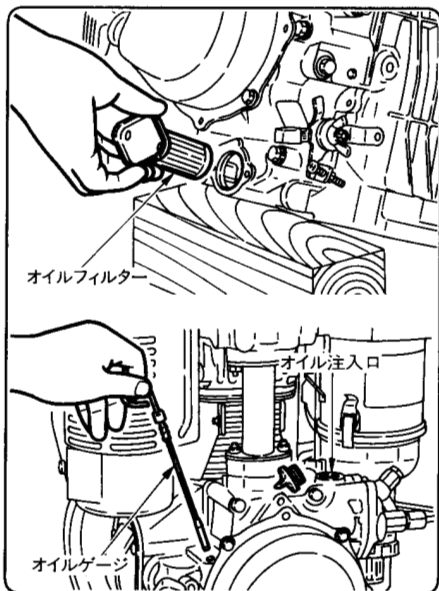


## 定期点検

エンジンを常に良好な状態で使うため、次の点検表に従って保守点検を必ず実行してください。  
(普通の場合で使用する場合)

運転時間(Hr)	8Hr(毎日)	50Hr(毎週)	100Hr	300Hr	500Hr	1000Hr	1500Hr
各部の油漏れ、燃料漏れ点検	○						
各部締付け状態の点検	○						
エンジンオイルの点検・補給	○(毎日規定最大量まで補給する)						
エンジンオイル交換	(初回25時間目)	○					
エアークリーナの清掃			○				
バルブクリアランスの点検調整					◎		
燃料フィルターの清掃				○(200Hr)	○交換		
オイルフィルターの洗浄			○				
ノズルの点検及び清掃					◎		
吸排気弁座点検すり合わせ						◎	
減速機オイルの点検				○			
バッテリー液量の点検			○(毎月)				
オーバーホール							◎

◎印の点検項目は販売店又は整備工場にご用命ください。

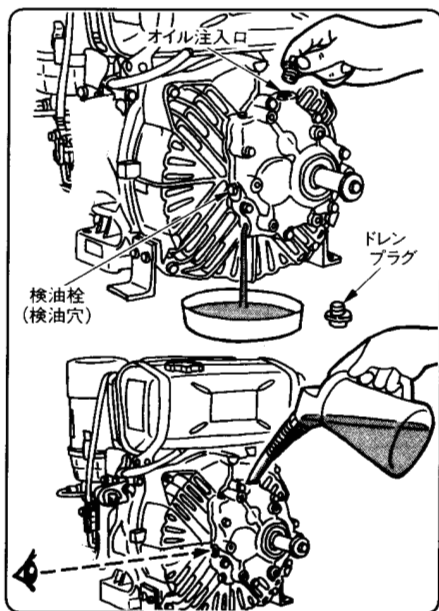


## エンジンオイルの交換と オイルフィルターの清掃

初 回 25時間運転後に交換  
2回目以降 50時間運転ごとに交換

1. エンジンが暖まっている時にオイルフィルターを外してください。
2. オイルを入れる時は規定レベルまで給油後、数分間エンジンを運転し、エンジン停止後10分程度たってから確認してください。  
約1ℓ入ります。(大型オイルパンは約1.5ℓ)
3. オイル交換時、オイルフィルターを洗浄してください。

『大型オイルパン仕様は24頁を参照ください。』



## 減速機オイルの交換(B形のみ)

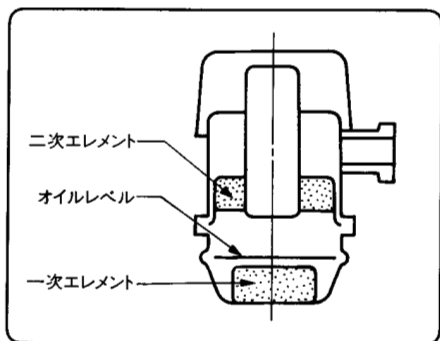
300時間運転ごとに交換

1. エンジンが暖まっている時に減速機のドレンプラグを外します。オイル注入口のプラグを外しておくとも早く抜けます。
2. オイルを注入する時はドレンプラグをしっかりと締め、検油栓を外し、エンジンを水平にしてオイルが検油穴からあふれるまで入れてください。

約220cc入ります。

- オイルの入れすぎは、ブリーザーよりのオイル吹き出しの原因となりますのでご注意ください。





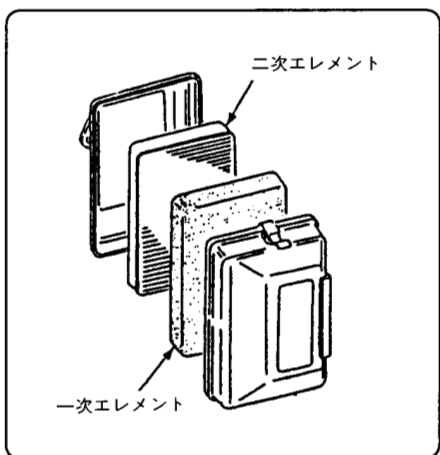
## エアークリーナの清掃

### 1. オイルバスエアークリーナの場合

空気中の塵埃を取り除き、エンジンにきれいな空気を供給するエアークリーナエレメントの汚れがひどくなると、エンジンの始動不良、出力不足、運転に不調をきたすばかりでなく、エンジンの寿命を極端に短くします。

いつもきれいなエアークリーナエレメントにしておくよう心がけてください。

- 100時間運転ごとに分解し、一次及び二次エレメントを軽油で清掃し、二次エレメントはオイルに浸してよく振りきってから組付けてください。
- オイルレベルまでエンジンオイルを入れます。
- 特にほこりの多い所で使用する時は、状況に応じて30～50時間運転ごとに清掃してください。

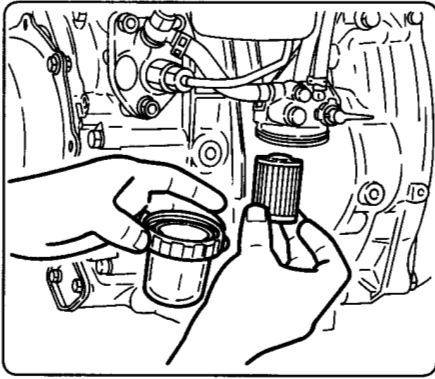


### 2. 乾式エアークリーナの場合

空気中の塵埃を取り除き、エンジンにきれいな空気を供給するエアークリーナエレメントの汚れがひどくなると、エンジンの始動不良、出力不足、運転に不調をきたすばかりでなく、エンジンの寿命を極端に短くします。

いつもきれいなエアークリーナエレメントにしておくよう心がけてください。

- 100時間運転ごとに分解し、一次及び二次エレメントを石鹼液でよく水洗いし、乾燥させてから組付けてください。
- 特にほこりの多い所で使用する時は、状況に応じて30～50時間運転ごとに清掃してください。

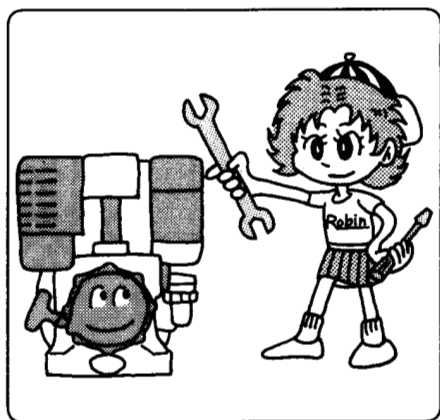


## 燃料フィルターの清掃

### ！危険：火気厳禁

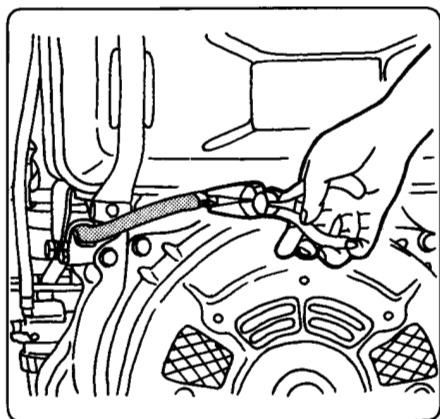
噴射ポンプは非常に精密にできているため、燃料中に塵埃や水が混入するとプランジャーに傷をつけたり、最悪の場合には焼付きを起す原因となります。エレメント及びカップの清掃は入念に行なってください。再組付時は燃料もれのないよう締めてください。

1. 燃料フィルターのカップに水、異物がある場合にはフィルターを外して清掃してください。
  2. 200時間運転ごとに清掃し、500時間運転ごとにエレメントを新品と交換してください。
- 清掃時は燃料フィルターのコックを閉にします。
  - 清掃後はエア抜きを行ってください（6頁参照）。



## 各所ボルト、ナット、ビスの点検

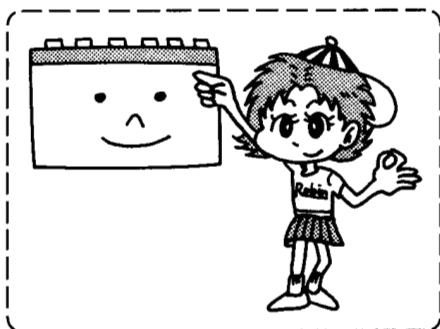
- ・ゆるんだボルト、ナット等は増締めします。
- ・燃料やオイルの漏れがないか点検します。
- ・破損部品は新品と交換し、安全を心掛けてご使用ください。



## 燃料パイプの交換

**！危険**：火気厳禁

- ・燃料パイプは2年で交換してください。  
尚、点検時漏れ等のあるものは即交換してください。
- ・燃料タンクの燃料を全部抜きとってから交換作業をしてください。

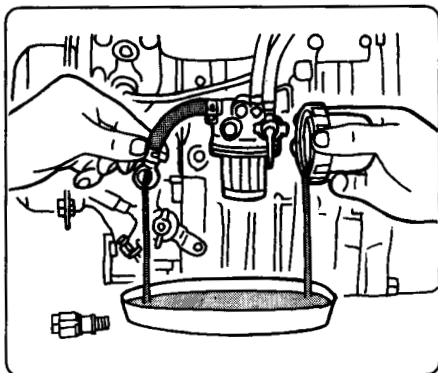


## バッテリーの点検

**！危険**：火気厳禁

- バッテリー電解液が規定面より下っている時は蒸溜水を補給してください。  
尚、取扱いについては7頁を参照してください。

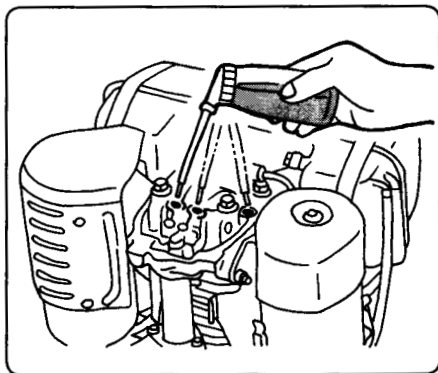
## 7. 長期保存のしかた



### 燃料を抜く

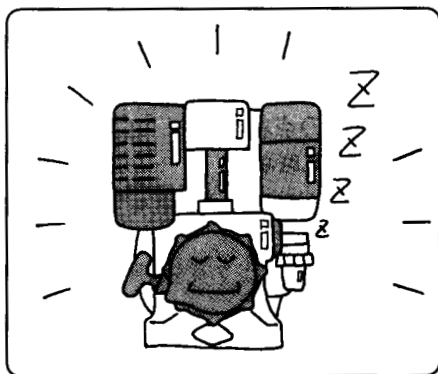
**！危険**：火気厳禁

- 燃料タンクの燃料は、噴射ポンプのボルトを外して抜きます。又燃料フィルターのカップを外しフィルター内の燃料も抜いてください。
- 燃料を抜いた後、燃料フィルターのエレメントを清掃してください。



### 注油する

- エンジンオイルは新しいオイルと交換しておきます。
- ロッカーカバーを外し、エンジンオイルをロッカーアーム、バルブに給油、クリーナ側の穴にオイルを注油し、エンジンを2～3回廻してロッカーカバーを締付けてください。



### 清掃して格納する

**！危険**：火気厳禁

- エンジンを廻して圧縮を感じた位置で止めておきます。
- 各部を油布で清掃し、カバーをかけて湿気、ホコリの少ないところに格納してください。

### 充電する

**！危険**：火気厳禁

- バッテリーは使用しない時でも自然放電します。毎月1回充電しておいてください。

## 8. 仕 様

名 称	DY30D形	DY30DS形	DY30B形	DY30BS形
形 式	空冷4サイクル立形頭上弁式ディーゼルエンジン			
シリンダ数-内径×行程 (mm)	1-76×66			
総 排 気 量 (c.c.)	299			
圧 縮 比	21			
連続定格出力(PS/rpm)	5/3000	5.5/3600	5/1450	5.5/1750
最大出力(PS/rpm)	6/3000	6.5/3600	6/1450	6.5/1750
最大トルク(kg-cm/rpm)	1.55/2400		3.22/1160	
回 転 方 向	左 (出力軸側から見て)			
冷 却 方 式	強制空冷式			
潤 滑 方 式	強制潤滑式			
使 用 潤 滑 油	ロビン純正オイルまたはディーゼルエンジンオイル (品質はCC級またはCD級のもの)			
オ イ ル ポ ンプ	トロコイド歯車式			
噴 射 ポ ンプ	ボッシュ形PFR1KD			
噴 射 ノ ズ ル	ボッシュ形ホールノズル			
使 用 燃 料	JIS2号軽油			
燃 料 消 費 率 (g/PS.h)	200 (5/3000)	230 (5.5/3600)	200 (5/1450)	230 (5.5/1750)
燃 料 供 給 方 式	重 力 式			
燃 料 タ ン ク 容 量 (ℓ)	約4.5			
燃 焼 方 式	直接噴射式			
調 速 方 式	遠心重錘式			
点 灯 能 力 (V-W/rpm)	—	12-29/3000 12-31/3600	—	12-29/1450 12-31/1750
始 動 方 式	リコイルスタータ式	セルモータ式	リコイルスタータ式	セルモータ式
乾 燥 重 量 (kg)	37	45	43	51
乾燥重量(バランスー付) (kg)	38.2	46.2	44.2	52.2
寸法(前兆×全巾×全高) (mm)	436×370×450	436×408×450	497×370×450	447×408×450

名 称	DY35D形	DY35DS形	DY35B形	DY35BS形
形 式	空冷4サイクル立形頭上弁式ディーゼルエンジン			
シリンダ数-内径×行程 (mm)	1-82×66			
総 排 気 量 (c.c.)	348			
圧 縮 比	21			
連続定格出力(PS/rpm)	6/3000	6.5/3600	6/1450	6.5/1750
最大出力(PS/rpm)	7/3000	7.5/3600	7/1450	7.5/1750
最大トルク(kg-cm/rpm)	1.75/2400 ▪ ▪		3.5/1160	
回 転 方 向	左 (出力軸側から見て)			
冷 却 方 式	強制空冷式			
潤 滑 方 式	強制潤滑式			
使 用 潤 滑 油	ロビン純正オイルまたはディーゼルエンジンオイル (品質はCC級またはCD級のもの)			
オ イ ル ポ ンプ	トロコイド歯車式			
噴 射 ポ ンプ	ボッシュ形PFR1KD			
噴 射 ノ ズ ル	ボッシュ形ホールノズル			
使 用 燃 料	JIS2号軽油			
燃料消費率(g/PS.h)	200 (6/3000)	230 (6.5/3600)	200 (6/1450)	230 (6.5/1750)
燃 料 供 給 方 式	重 力 式			
燃料タンク容量(ℓ)	約4.5			
燃 焼 方 式	直接噴射式			
調 速 方 式	遠心重錘式			
点灯能力(V-W/rpm)	—	12-29/3000 12-31/3600	—	12-29/1450 12-31/1750
始 動 方 式	リコイルスタータ式	セルモータ式	リコイルスタータ式	セルモータ式
乾 燥 重 量 (kg)	37	45	43	51
乾燥重量(バラサナー付) (kg)	38.2	46.2	44.2	52.2
寸法(前兆×全巾×全高) (mm)	436×370×450	436×408×450	497×370×450	447×408×450

名 称	DY41D形	DY41DS形	DY41B形	DY41BS形
形 式	空冷4サイクル立形頭上弁式ディーゼルエンジン			
シリンダ数ー内径×行程 (mm)	1-82×78			
総 排 気 量 (c.c.)	412			
圧 縮 比	21			
連続定格出力(PS/rpm)	7/3000	7.5/3600	7/1450	7.5/1750
最大出力(PS/rpm)	8/3000	8.5/3600	8/1450	8.5/1750
最大トルク(kg-cm/rpm)	2.01/2400		4.17/1160	
回 転 方 向	左 (出力軸側から見て)			
冷 却 方 式	強制空冷式			
潤 滑 方 式	強制潤滑式			
使 用 潤 滑 油	ロビン純正オイルまたはディーゼルエンジンオイル (品質はCC級またはCD級のもの)			
オ イ ル ポ ンプ	トロコイド歯車式			
噴 射 ポ ンプ	ボッシュ形PFR1KD			
噴 射 ノ ズ ル	ボッシュ形ホールノズル			
使 用 燃 料	JIS2号軽油			
燃料消費率(g/PS.h)	200 (7/3000)	220 (7.5/3600)	200 (7/1450)	220 (7.5/1750)
燃 料 供 給 方 式	重力式			
燃料タンク容量 (ℓ)	約4.5			
燃 焼 方 式	直接噴射式			
調 速 方 式	遠心重錘式			
点灯能力(V-W/rpm)	—	12-29/3000 12-31/3600	—	12-29/1450 12-31/1750
始 動 方 式	リコイルスタータ式	セルモータ式	リコイルスタータ式	セルモータ式
乾 燥 重 量 (kg)	46	53	50	57
乾燥重量(パランサー付) (kg)	47.5	54.5	51.5	58.5
寸法(前兆×全巾×全高) (mm)	436×370×478	436×408×478	497×370×478	447×408×478

名 称	DY42D形	DY42DS形	DY42B形	DY42BS形
形 式	空冷4サイクル立形頭上弁式ディーゼルエンジン			
シリンダ数×内径×行程(mm)	1-82×78			
総 排 気 量 (c.c.)	412			
圧 縮 比	21			
連続定格出力 (PS/rpm)	7.7/3000	8.5/3600	7.7/1450	8.5/1750
最 大 出 力 (PS/rpm)	8.8/3000	9.5/3600	8.8/1450	9.5/1750
最大トルク (kg-cm/rpm)	2.22/2400 ▪		4.61/1160	
回 転 方 向	左 (出力軸側から見て)			
冷 却 方 式	強制空冷式			
潤 滑 方 式	強制潤滑式			
使 用 潤 滑 油	ロビン純正オイルまたはディーゼルエンジンオイル (品質はCC級またはCD級のもの)			
オ イ ル ポ ン プ	トロコイド歯車式			
噴 射 ポ ン プ	ボッシュ形PFR1KD			
噴 射 ノ ズ ル	ボッシュ形ホールノズル			
使 用 燃 料	JIS2号軽油			
燃料消費率 (g/PS.h)	200 (7.7/3000)	200 (8.5/3600)	200 (7.7/1450)	220 (8.5/1750)
燃 料 供 給 方 式	重 力 式			
燃 料 タ ン ク 容 量 (ℓ)	約4.5			
燃 焼 方 式	直接噴射式			
調 速 方 式	遠心重錘式			
点 灯 能 力 (V-W/rpm)	—	12-29/3000 12-31/3600	—	12-29/1450 12-31/1750
始 動 方 式	リコイルスタータ式	セルモータ式	リコイルスタータ式	セルモータ式
乾 燥 重 量 (kg)	47	54	51	58
乾燥重量(バランスー付)(kg)	48.5	55.5	52.5	59.5
寸法(前兆×全巾×全高)(mm)	436×394×478	436×408×478	497×394×478	447×408×478

**特装品として次の物が用意してあります。**(ご注文はロビンエンジン部品特約店にご相談ください。)

- 1) 出力軸 (テーパー軸、ポンプ軸) ▪ 2) アダプター (発電機、ポンプ直結用)
  - 3) ワンタッチスピードセット部品 ▪ 4) 索引用部品 ▪ 5) 上向き、下向き排気用マフラ
  - 6) 上向き、下向きマフラ用テールパイプ
2. 特殊エンジンとしてバランスー付があります。

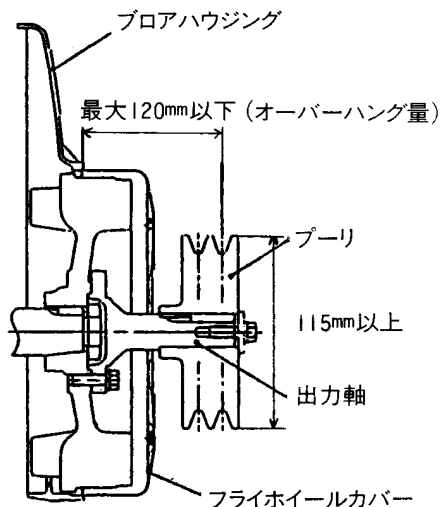


# 9. ベルト駆動について

ベルト駆動の場合は下記に注意してください。

## 1. プーリーの外径と取付位置

- ・プーリーの外径が小さいとスリップしますので、115mm以上にしてください。
- ・プロアーハウジング端面から外側のベルト中心までの距離（オーバーハング量）は120mm以下にしてください。大きすぎると軸の折損などの事故が発生することがあります。

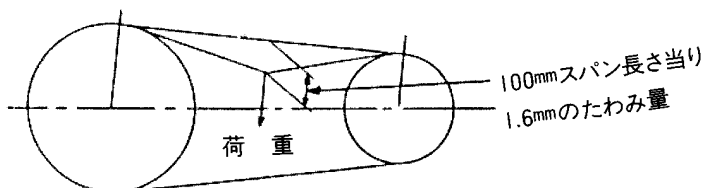


## 2. 推奨ベルトと本数

機種名	ベルト形式×本数
DY 30、35、41、42	B形×2本

## 3. ベルト張り

- ・ベルトはプーリー間の中央部を指で押し、プーリー間距離100mm当り1.6mm位のたわみ量となるようにしてください。  
(たとえば、プーリー間距離が500mmの場合はたわみ量8mmとなります)
- ・強く張りすぎるとリコイル引き力が重くなったり、軸やベアリングの破損等の事故が発生することがあります。



# 10. 大型オイルパンについて

---

## 大型オイルパン付き仕様の場合

大型オイルパン付き仕様の場合、DY30、35、41、42形取扱い説明書に対して下記内容が異なりますので、注意してください。

### 1. 取扱い説明書 5 ページ

エンジンオイルを入れる。

オイルはエンジンを水平において、オイルゲージを口元まで差し込んで、上のきざみ線まで入れてください。DY30、35は約1.5ℓ  
DY41、42は約1.6ℓ入ります。

- ・オイルは次の粘度のロビン純正オイル、又はディーゼルエンジンオイルを使用してください。

SAE#30 (10°~40℃)

SAE10W-30 (-15°~20℃)

- ・品質はCC、CD級のものを御使用ください。

質の悪いエンジンオイルを使用すると焼き付き損傷、その他のトラブルの原因になります。

注) 6 ページ~13ページは取扱い説明書に準ずる。

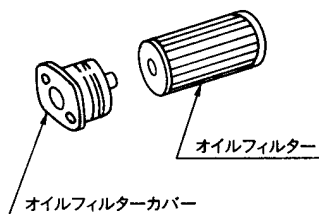
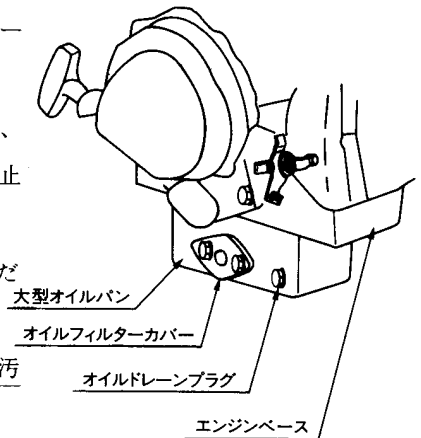
## 2. 取扱い説明書 14ページ

エンジンオイルの交換及びオイルフィルターの清掃

初 回 25時間運転後に交換

第二回以降 50時間運転後に交換

- 1) エンジンが暖まっている時、オイルドレインプラグを外してオイルを抜きます。
- 2) オイルを入れる時は規定レベルに給油後、数分間エンジンを運転し、エンジンを停止してから10分程度おいた後にオイルレベルを再確認し、不足の場合は給油してください。
- 3) オイル交換時オイルフィルターも外して汚れを点検してください。  
汚れている時は軽油でよく洗浄してください。



注) 15ページ以降は取扱い説明書に準ずる。



**富士重工業株式会社**  
**産業機器カンパニー**

〒364-8511 埼玉県北本市朝日4-410  
TEL:048-593-7857, FAX:048-593-7965  
<http://www.fhi.co.jp/robin/>